

参加者へのお知らせとお願い

■研究会参加者の皆様へ

1. 受付は日本消防会館ニッショー・ホールにて下記の時間より開始します。
3月18日（土）11：00～
3月19日（日） 9：30～
2. 参加登録費（抄録集、発表論文集代を含む） 10,000円
※会場ではネームカードに所属・氏名を記入の上、必ず着用して下さい。
3. 発表論文集
発表論文集を後日郵送しますので、参加登録の際には所定の用紙に住所・氏名を正確にご記入下さい
（不正確ですと発表論文が届かないことがございます）。
4. 会場での発言はマイクを使用し、所属・氏名を最初に述べて下さい。
5. 会場での呼び出しは緊急の場合のみに限り、受付で申し受けます。外部からの電話呼び出しは先方の番号のみ
伺っておりますので、改めてご自分でお掛け直し下さい。
会場内のアナウンスはお断りします。
6. 会場内は禁煙です。
7. その他のお問い合わせは受付へご連絡下さい。
8. 日本透析医学会専門医の単位取得について
本研究会に参加されますと、日本透析医学会の専門医制度により定められた3単位を取得できます。単位取得
のための参加証は参加受付にてネームカードを確認の上お渡しします。

■座長の先生方へ

1. 担当セッションの開始15分前までに、次座長席にご着席下さい。
2. 演者の口演時間および討論時間は厳守でお願い致します。

■演者の方へ

1. 発表時間
一般演題：口演7分 討論3分（前回優秀演題：口演12分 討論3分）
パネルディスカッション：企業5分、医師10分

2. 発表について

- ・パワーポイントによる PC (パソコン) での発表のみです (スライドでの発表は受けませんのでご注意ください).
- ・利益相反 (COI) についての情報開示をお願い致します。発表の最初か最後に利益相反自己申告に関するスライドを加えてください。
- ・PC 受付に発表予定時刻の 30 分前までにお越し頂き、出力をチェックしてください。モニターの使用方法等についてご不明の点はオペレーターにお尋ね下さい。
- ・プロジェクターは 1 台のみです。ご発表時にはご自身で送り・戻しの操作をお願い致します。

1) データの持込の場合

- ・PC は以下の環境で用意致します。
OS = Windows7
Power Point = ver.2003 以降
- ・Macintosh は用意しておりません。Macintosh で発表される方は、ご自身の PC をお持込下さい。
- ・Windows format に限り CD-ROM もしくは USB 接続のフラッシュメモリデータスティックをご持参下さい (MO, FD, ZIP では受付できませんので、ご注意ください)。必ず、バックアップデータをお持ち下さい。
- ・文字化けをふせぐため、OS に標準インストールされているフォントをご使用下さい。
- ・動画を使用される場合はご自身の PC をお持込下さい (データをご持参された場合、確実に作動する保障はありません)。音声の使用はできません。
- ・お預かりしたデータは研究会終了後、事務局が責任を持って消去致します。

2) PC 持込の方へ

- ・Windows, Macintosh のどちらでも受付可能です。PC 本体に出力用の D-sub 15pin ミニ端子がついている事を確認してください。変換コネクタを必要とする場合は必ずご持参下さい。また、電源アダプターも必ずお持ち下さい。音声の使用はできません。

3. 発表論文提出について

- ・発表論文 (掲載用論文) は「腎と透析」(東京医学社) の投稿規定に即して作成し、後日、印刷した原稿とともに CD-R または USB 電子媒体を日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会事務局宛て郵送にてご提出ください。
- ・掲載漏れなど防ぐために、研究会当日ならびに事務局以外 (東京医学社) では一切受付できませんので、ご了承ください。
- ・提出期限は研究会開催年の 4 月末日といたします。
- ・研究会開催後に事務局より再度発表者様に上記内容「発表論文提出について」をメールにて案内致しますので、ご確認ください。
- ・4 月末日までに提出がない発表者様に対しては事務局より確認のメールを送信致します。ただし、確認のみの案内であり、提出期限の延長などは一切認められません。
- ・郵送物 (原稿と CD-R または USB 電子媒体) に不足がある場合はメールにて連絡致します。再提出なければ受理できませんので、ご了承ください。
- ・受理いたしました掲載用論文は発表者様へメール通知を行った後、事務局より東京医学社へお渡しし、校正などの取扱いについての責任を譲渡致します。

■情報交換会 (参加費 1,000 円)

3 月 18 日 (土) 18:00 より、霞ヶ関ビル 35F 東海大学校友会館にて会員情報交換会を開催致します。どうぞご参加下さい。

なお、情報交換会参加申し込みは研究会参加受付隣 (ニッショーホール 1F) にて行います。

役員一覧

名誉会長

斎藤 明 (湘南東部総合病院)

会長

水口 潤 (川島病院)

(以下 アイウエオ順)

顧問

秋澤 忠男 (東京腎疾患研究・情報センター)

秋葉 隆 (東京女子医科大学)

酒井 清孝 (早稲田大学)

佐中 孜 (江戸川病院)

鈴木 正司 (信楽園病院)

内藤 秀宗 (内藤医学研究所)

世話人

川西 秀樹 (土谷総合病院)

竹澤 真吾 (九州保健福祉大学)

武本 佳昭 (大阪市立大学)

友 雅司 (大分大学)

政金 生人 (矢吹病院)

山下 明泰 (法政大学)

監事

衣笠 えり子 (昭和大学横浜市北部病院)

峰島 三千男 (東京女子医科大学)

事務局

〒 770-8548 徳島県徳島市北佐古 1 番町 1-39

社会医療法人 川島会 川島病院

TEL : 088-631-0782 FAX : 088-612-8326

URL : <http://www.hpm-net.jp> Email : information@hpm-net.jp

プログラム

第1日目 3月18日(土)

12:00~12:10	開会の辞
12:10~12:50	基礎
12:50~13:30	溶質除去
13:30~14:10	膜の性能評価 I
14:10~14:50	膜の性能評価 II
14:50~15:30	膜の性能評価 III
15:30~15:40	休憩
15:40~17:40	パネルディスカッション
18:00~	情報交換会

12:00～12:10 開会の辞

会長：水口 潤（川島病院）

12:10～12:50 基礎

座長：花房 規男（東京女子医科大学）

小久保 謙一（北里大学病院医療衛生学部）

O-01. モジュールの設計因子とアルブミン透過量の関係

法政大学 生命科学部 環境応用化学科¹⁾

日機装株式会社²⁾

○小迫 知樹¹⁾ 富沢 成美^{1,2)} 岩島 重人²⁾ 神保 陽一^{1,2)} 山下 明泰¹⁾

O-02. 膜の物理化学的構造を透析実験による物質除去効率から評価する方法

法政大学大学院 理工学研究科 応用化学専攻

○小野 恭尚 山下 明泰

O-03. 膜の非対称性を限外濾過実験による物質除去効率から評価する方法

法政大学大学院 理工学研究科 応用化学専攻¹⁾

法政大学 生命科学部 環境応用化学科²⁾

○小野 恭尚¹⁾ 掛江 俊輝²⁾ 山下 明泰^{1,2)}

O-04. 除去率についての諸問題

透析医療・技術研究所¹⁾

大幸砂田橋クリニック²⁾

砂田橋クリニック³⁾

大幸砂田橋ブランチクリニック⁴⁾

○坂下 恵一郎¹⁾ 中嶋 俊介²⁾ 石原 福地²⁾ 黒岩 実²⁾ 西野 省吾²⁾ 白川 智栄²⁾ 隈 修一²⁾

加藤 博愛²⁾ 近藤 弥生²⁾ 西元 孝二²⁾ 清水 季涛²⁾ 伊井 友昭²⁾ 飯田 俊郎²⁾ 前田 憲志²⁾

小澤 裕子³⁾ 吉崎 重仁⁴⁾

12:50～13:30 溶質除去

座長：川西 秀樹（土谷総合病院）

田岡 正宏（名港共立クリニック）

O-05. 膜素材ごとのTMP制御による溶質除去特性の検討

特定医療法人 あかね会 中島土谷クリニック¹⁾

特定医療法人 あかね会 土谷総合病院²⁾

○高 義尚¹⁾ 森石 みさき¹⁾ 岩井 ゆり¹⁾ 泉 将司¹⁾ 矢野 勝也¹⁾ 白砂 健太¹⁾ 西田 秀樹¹⁾

内藤 篤¹⁾ 河端 宏幸¹⁾ 下方 実樹¹⁾ 中本 義郎¹⁾ 谷川 智彦¹⁾ 真島 菜々子^{1,2)} 川西 秀樹²⁾

土谷 晋一郎²⁾

O-06. ダイアフィルタ選択から見たテーラーメイド On line HDF 療法

- (医) 藍蒼会 しもかどクリニック¹⁾
(医) 藍蒼会 しもかど腎透析クリニック²⁾
○下門 清志¹⁾ 山本 裕美¹⁾ 北川 晃子²⁾

O-07. 希釈法別にみたオンライン HDF の生体適合性について

- (社医) 川島会 川島病院 臨床工学部¹⁾
(社医) 川島会 川島病院 腎臓科²⁾
○道脇 宏行¹⁾ 竹内 教貴¹⁾ 福留 悠樹¹⁾ 田尾 知浩¹⁾ 土田 健司²⁾ 水口 潤²⁾ 川島 周²⁾

O-08. ヘモダイアフィルタの膜面積と血流量の変化における除去性能の比較

- 医療法人援腎会 あさか野泌尿器透析クリニック 臨床工学部¹⁾
医療法人援腎会 すずきクリニック 臨床工学部²⁾
医療法人援腎会 すずきクリニック 泌尿器科³⁾
医療法人援腎会 あさか野泌尿器透析クリニック 泌尿器科⁴⁾
○伊東 健¹⁾ 人見 友啓²⁾ 鈴木 翔太²⁾ 本田 周子³⁾ 鈴木 一裕³⁾ 新田 浩司⁴⁾

13:30 ~ 14:10 膜の性能評価 I

座長：武本 佳昭（大阪市立大学）

道脇 宏行（川島病院）

O-09. 東レ・メディカル社製 NV 膜使用による糖尿病性腎症透析患者の動脈硬化に対する臨床評価

- 医療法人財団 松圓会 東葛クリニック病院 臨床工学部¹⁾
医療法人財団 松圓会 東葛クリニック病院 法人本部²⁾
医療法人財団 松圓会 東葛クリニック病院 腎臓内科³⁾
医療法人財団 松圓会 東葛クリニック病院 外科⁴⁾
○久保 満¹⁾ 大木 好明¹⁾ 森脇 邦弘¹⁾ 池田 太寛幸¹⁾ 小松 直美¹⁾ 木船 和弥¹⁾ 小島 定夫¹⁾
二階堂 春奈¹⁾ 渋谷 泰史¹⁾ 松金 隆夫²⁾ 中澤 了一³⁾ 東 伸宣⁴⁾

O-10. 東レメディカル社製 TDF-20HV (TDF) の on-line HDF に対する性能評価

- 医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾
医療法人 康仁会 西の京病院 透析センター²⁾
○野口 幸¹⁾ 大西 順也¹⁾ 二神 徳明¹⁾ 明石 清忠¹⁾ 渡邊 美智子²⁾ 井上 貴文²⁾ 赤澤 愛²⁾
吉岡 伸夫²⁾ 高比 康臣²⁾

O-11. “トレライト” NVの生体適合性 基礎検討

- 東レ株式会社先端材料研究所¹⁾
東レ株式会社医薬研究所²⁾
東レ株式会社技術センター企画室³⁾
○藤枝 洋暁¹⁾ 古賀 陽子²⁾ 目黒 裕之²⁾ 林 昭浩¹⁾ 大須賀 友明¹⁾ 上野 良之¹⁾ 青木 孝夫³⁾
戒能 美枝²⁾ 三和 敬史¹⁾

O-12. 後希釈 on-line HDF におけるトレスルホン NV の性能評価

一般財団法人甲南会 甲南病院 血液浄化・腎センター

○保月 栄一 土谷 武嗣 松井 一恵 細井 陽介 石井 達也 空野 葵 藤田 明子
明石 光弘 樋口 夏希 藤森 明

14:10 ~ 14:50 膜の性能評価Ⅱ

座長：衣笠 えり子（昭和大学横浜市北部病院）

花岡 孝行（淳康会堺近森病院）

O-13. FA-210Feco の性能評価

特定医療法人 あかね会 中島土谷クリニック¹⁾

特定医療法人 あかね会 土谷総合病院²⁾

○矢野 勝也¹⁾ 川西 秀樹²⁾ 泉 将司¹⁾ 岩井 ゆり¹⁾ 白砂 健太¹⁾ 西田 英樹¹⁾ 内藤 篤¹⁾
河端 宏幸¹⁾ 下方 実樹¹⁾ 高 義尚¹⁾ 中本 義郎¹⁾ 谷川 智彦¹⁾ 真島 菜々子¹⁾ 森石 みさき¹⁾
土谷 晋一郎²⁾

O-14. ポリネフロン PES-SG α eco の臨床評価

釧路泌尿器科クリニック

○大澤 貞利 山本 英博 斉藤 辰巳 伊藤 正峰 佐野 洋 久島 貞一

O-15. 新型セルローストリアセテート膜ダイアライザ FB-150UP eco の臨床特性

医療法人 一陽会 原田病院 血液浄化部¹⁾

医療法人 一陽会 原田病院 腎臓内科²⁾

○黒谷 成論¹⁾ 桂木 美紀¹⁾ 田淵 嵩人¹⁾ 北川 亜季¹⁾ 田島 淳平¹⁾ 三原 彩¹⁾ 松井 未紀¹⁾
田中 秀人¹⁾ 加藤 聖人¹⁾ 珍部 三恵子¹⁾ 北森 初男¹⁾ 福田 剛三¹⁾ 本丸 忠生¹⁾ 西澤 欣子²⁾
水入 苑生²⁾ 重本 憲一郎²⁾ 原田 知²⁾

O-16. ニプロ社製 FB-210F α の性能評価

特定医療法人あかね会 中島土谷クリニック¹⁾

特定医療法人あかね会 土谷総合病²⁾

○河端 宏幸¹⁾ 川西 秀樹²⁾ 泉 将司¹⁾ 矢野 勝也¹⁾ 岩井 ゆり¹⁾ 白砂 健太¹⁾ 西田 英樹¹⁾
内藤 篤¹⁾ 下方 実樹¹⁾ 高 義尚¹⁾ 中本 義郎¹⁾ 谷川 智彦¹⁾ 真島 菜々子¹⁾ 森石 みさき¹⁾
土谷 晋一郎²⁾

14:50～15:30 膜の性能評価Ⅲ

座長：菊地 勘 (下落合クリニック)

峰島 三千男 (東京女子医科大学)

O-17. FIX-210Eeco の臨床性能評価

JA 長野厚生連篠ノ井総合病院 臨床工学科¹⁾

JA 長野厚生連篠ノ井総合病院 腎臓内科²⁾

○田中 光¹⁾ 平林 和也¹⁾ 関原 宏幸¹⁾ 穴山 万理子²⁾ 中村 裕紀²⁾ 牧野 靖²⁾ 田村 克彦²⁾
長澤 正樹²⁾

O-18. FIX-250Ueco における Post on-line HDF の至適置換流量の検討

特定医療法人あかね会 中島土谷クリニック

○西田 英樹 森石 みさき 岩井 ゆり 泉 将司 矢野 勝也 白砂 健太 内藤 篤
河端 宏幸 下方 実樹 高 義尚 中本 義郎 谷川 智彦 真島 菜々子 川西 秀樹
土谷 晋一郎

O-19. 新型 PES 膜ダイアライザ PES-15K α eco および新型 CTA 膜 FB-150UPeco の臨床評価

医療法人一陽会 原田病院 血液浄化部¹⁾

医療法人一陽会 原田病院 腎臓内科²⁾

○田中 秀人¹⁾ 桂木 美紀¹⁾ 田淵 嵩人¹⁾ 北川 亜季¹⁾ 黒谷 成論¹⁾ 田島 淳平¹⁾ 三原 彩¹⁾
松井 未紀¹⁾ 加藤 聖人¹⁾ 珍部 三恵子¹⁾ 北森 初男¹⁾ 福田 剛三¹⁾ 本丸 忠生¹⁾ 西澤 欣子²⁾
水入 苑生²⁾ 重本 憲一郎²⁾ 原田 知²⁾

O-20. MFX-25Ueco における性能評価

おおの駅前透析クリニック 臨床工学室¹⁾

おおの駅前透析クリニック 内科²⁾

さがみ循環器クリニック 臨床工学室³⁾

さがみ循環器クリニック 内科⁴⁾

○幸松 直樹^{1,3)} 石井 文雄^{1,3)} 乙津 文夫^{1,3)} 林 亜弥³⁾ 清宮 良太³⁾ 大熊 美智代³⁾ 吉田 煦^{2,4)}
中嶋 真一^{2,4)} 浅井 友基^{2,4)}

15:30～15:40 休憩

15:40～17:40 パネルディスカッション

「HPMの特徴・特性から、その適応病態を探る！」

司会：峰島 三千男（東京女子医科大学）

山下 明泰（法政大学）

PD-01. PMMA 膜について

高橋 直子（大町土谷クリニック）

押原 渉（東レ株式会社）

PD-02. VitaminE コーティング膜について

友 雅司（大分大学医学部 血液浄化センター）

是本 昌英（旭化成メディカル株式会社）

PD-03. AN69 膜について

佐藤 元美（地域医療機能推進機構中京病院 腎臓内科）

石川 貴雄（バクスター株式会社）

PD-04. ATA 膜について

政金 生人（（医）社団清永会矢吹病院）

春原 隆司（ニプロ株式会社）

PD-05. PEPA 膜について

藤森 明（甲南病院）

富沢 成美（日機装株式会社）

PD-06. ポリスルホン膜について

甲田 豊（甲田内科クリニック）

工藤 俊洋（フレゼニウス株式会社）

18:00～ 情報交換会

プログラム

第2日目 3月19日(日)

10:30~11:15	前回優秀演題
11:15~12:05	IHDF
12:05~13:15	昼食
13:15~13:30	総会
13:30~14:00	その他
14:00~14:10	閉会の辞

10:30～11:15 前回優秀演題

会長：水口 潤 (川島病院)

O-21. CTA 膜へモダイアフィルタの分画除去特性

社会医療法人川島会 川島病院 臨床工学部¹⁾

社会医療法人 川島会 川島病院 腎臓科²⁾

○田中 悠作¹⁾ 麻 裕文¹⁾ 廣瀬 大輔¹⁾ 道脇 宏行¹⁾ 田尾 知浩¹⁾ 水口 潤²⁾

O-22. 透析液溶解装置における過酢酸洗浄の検討

医療法人社団 明生会 東葉クリニック¹⁾

学校法人順正学園 九州保健福祉大学 大学院 保健科学研究科²⁾

○坂口 鉄兵¹⁾ 竹澤 真吾²⁾ 吉田 正美¹⁾ 山下 淳一¹⁾ 大森 耕一郎¹⁾ 田畑 陽一郎¹⁾

O-23. BV 計によるバスキュラーアクセス再循環率測定時の動脈側波形変動の原因とこの異常所見が検出される患者の特徴と予後

東京女子医科大学 臨床工学部¹⁾

東京女子医科大学 臨床工学科²⁾

東京女子医科大学 血液浄化療法科³⁾

○村上 淳¹⁾ 金子 岩和¹⁾ 峰島 三千男²⁾ 土谷 健³⁾

11:15～12:05 IHDF

座長：宍戸 寛治 (川崎クリニック)

村上 淳 (東京女子医大)

O-24. 前希釈 On line HDF における置換液量の違いが Na 動態に与える影響

(医) さとに田園クリニック 臨床工学科¹⁾

(医) さとに田園クリニック 内科²⁾

(医) さとに田園クリニック 泌尿器科³⁾

○南條 友典¹⁾ 長岡 高広¹⁾ 宮田 俊哉¹⁾ 中村 慎也¹⁾ 西谷 美香¹⁾ 山本 真理絵²⁾ 藤川 康典²⁾
大島 領³⁾ 太田 匡彦³⁾

O-25. オンライン HDF に intermittent (I) -HDF を併用した溶質除去効果

社会医療法人財団 石心会 さいわい鹿島田クリニック¹⁾

社会医療法人財団 石心会 川崎クリニック²⁾

○武田 勝¹⁾ 伊澤 潤¹⁾ 森尾 仁貴¹⁾ 玉木 遼²⁾ 中村 賢洋²⁾ 鶴澤 一行²⁾ 木暮 照子¹⁾
若狭 幹雄²⁾ 朝倉 裕士¹⁾ 宍戸 寛治²⁾

O-26. 間歇補液プログラムの臨床使用評価

医療法人社団望星会 鶴見西口病院¹⁾

松和会グループ モニタリング委員会²⁾

○新田 静隆¹⁾ 岩田 大樹²⁾ 深田 由記²⁾ 星野 毅²⁾ 加藤 正人²⁾ 吉田 雄一郎¹⁾ 大谷 浩一²⁾
米山 貢²⁾ 王 恒維¹⁾

O-27. 透析前補正Ca値の比較・オンラインHDF前希釈時、後希釈時の場合（キンダリー4E号使用）

医療法人社団博友会 金沢西病院 ME室¹⁾

医療法人社団博友会 金沢西病院 腎臓内科²⁾

○松本 圭司¹⁾ 島 寛¹⁾ 野村 浩貴¹⁾ 浅香 充宏²⁾ 羽柴 哲自²⁾

O-28. I-HDFにおけるFIX-210Eecoの除去特性

腎内科クリニック世田谷 臨床工学部¹⁾

腎内科クリニック世田谷 人工透析内科²⁾

○西澤 喬光（にしざわ たかみつ）¹⁾ 種山 嗣高²⁾ 斎藤 祐太²⁾ 正木 一郎²⁾ 菅沼 信也²⁾

12:05 ~ 13:15 昼食

13:15 ~ 13:30 総会

13:30 ~ 14:00 その他

座長：菅沼 信也（腎内科クリニック世田谷）

榎村 友隆（純真学園大学保健医療学部医療工学科）

O-29. 中分子量炎症性蛋白としての α 1microglobulin と λ -Free Light Chain の比較検討

（医）藍蒼会 しもかどクリニック¹⁾

（医）藍蒼会 しもかど腎透析クリニック²⁾

○下門 清志¹⁾ 森本 光士郎¹⁾ 小汀 佑子¹⁾ 山本 裕美¹⁾ 北川 晃子²⁾

O-30. 日機装社製DCS-100NXでのTMPによるQS制御機能を用いたHDF

甲南病院 血液浄化・腎センター¹⁾

甲南病院 内科²⁾

甲南病院 臨床工学室³⁾

○大川 智史¹⁾ 藤森 明¹⁾ 岡田 志緒子¹⁾ 坂井 誠²⁾ 溝渕 憲子²⁾ 保月 栄一³⁾ 土谷 武嗣³⁾
細井 陽介³⁾ 石井 達也³⁾ 空野 葵³⁾ 藤田 明子³⁾ 明石 光弘³⁾ 樋口 夏希³⁾

O-31. 日機装社製透析用監視装置DCS100NXのオンライン間歇HDF機能（2法）による血圧低下の抑止効果

東葛クリニック病院 臨床工学部¹⁾

東葛クリニック病院 外科²⁾

○山田 航平¹⁾ 小川 大介¹⁾ 菅田 さおり¹⁾ 新部 武人¹⁾ 糸日谷 美奈子¹⁾ 久保 満¹⁾ 大木 好明¹⁾
渋谷 泰史¹⁾ 東 伸宣²⁾

14:00～14:10 閉会の辞

世話人：川西 秀樹

会 則 ・ 細 則

会 則

第 1 章 総則

- 第 1 条 本会は、日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会
(Japanese Society of High Performance Membrane for Blood Purification) と称する。
- 第 2 条 本会は事務局を徳島県徳島市北佐古一番町 1-39 社会医療法人 川島会 川島病院内に置く。

第 2 章 目的および事業

- 第 3 条 本会は、高性能透析膜と次世代人工腎臓のためのシステムと関連諸機器の開発とその臨床応用の積極的な推進、高性能透析膜の使用と臨床効果に関する調査研究により、医療の向上に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

第 3 章 会員

- 第 5 条 本会は、正会員と賛助会員により構成される。
正会員は、本会の主旨に賛同した個人とし、賛助会員は、本会の主旨に賛同した組織とする。
- 第 6 条 正会員は、本会の事業及び総会において議決に参加することができる。
- 第 7 条 賛助会員は、その組織代表が本会の事業及び学術集会へ参加することができる。
- 第 8 条 正会員、賛助会員はそれぞれ所定の会費を納入しなければならない。
2年以上会費を滞納したときは、会員の資格を失う。
- 第 9 条 退会を希望するものは、所定の退会届に記入の上、事務局に提出する。

第 4 章 役員

- 第 10 条 本会に次の役員をおく。
1. 名誉会長 若干名
 2. 会長 1名
 3. 顧問 数名
 4. 世話人 数名
 5. 監事 2名
- 第 11 条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
会長は世話人会で選任され、総会の承認をうける。
- 第 12 条 顧問は、本会の運営や事業の推進にあたり会長そして世話人会に必要なに応じて援助、指導をする。
- 第 13 条 世話人は、世話人会を組織し、総会の権限に属する事項以外のすべての本会の会務を審議決定し、執行する。
世話人は世話人会で選任され、総会の承認をうける。
- 第 14 条 監事は、世話人会の推薦に基づき会長が決定し、総会の承認をうける。
監事は、本会の業務及び経理を監査する。
- 第 15 条 役員任期は 4 年とし、再任を妨げない。

第5章 世話人会および総会

第16条 本会は原則として毎年2回の世話人会及び1回の総会を開催する。

第17条 総会の議長は会長があたり、議決は出席者の半数をもって決し、賛否同数の場合は議長が決する。

第18条 次に掲げる次項については、定期総会の承認を受けなければならない。

1. 事業計画と収支予算についての事項
2. 事業報告と収支決算についての事項
3. 財産目録についての事項
4. 会則変更及び解散についての事項
5. 役員承認及び変更についての事項
6. その他世話人会において必要と認めた事項

第6章 会計

第19条 本会の事業遂行に要する費用は、会費、賛助会費及び事業にともなう収入をもってこれにあてる。

第20条 本会の会計年度は毎年1月1日より同年12月31日までとする。

第7章 会則の変更及び本会の解散

第21条 本会会則は世話人会において3分の2以上の賛同を得、総会の承認を得なければ変更することはできない。

第22条 1. 本会は、世話人会において4分の3以上の賛同を得、総会の承認を得なければ、解散することはできない。

2. 本会の解散にともなう資産は、幹事会の決議と、総会の承認を得て、本会と類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。

第8章 補足

第23条 本会の施行についての細則は、世話人会の議決を得て別に定める。

細 則

1. 本会則は、本会発足後の昭和60年3月13日より仮発効され、昭和60年9月13日より本発効される。
2. 本会正会員の年会費は10,000円とする。
3. 賛助会員の年会費は1口10万円とする。(1社あたり3口以上が望ましい)
4. 本会則は、改訂の上、平成25年3月17日より発効される。